

開催月日	名 称 (開 催 地)
3.18 - 3.21	日本天文学会 2015年春季年会 (大阪大学)
3.20 - 3.22	日本原子力学会春の年会 (茨城大学日立キャンパス)
3.21 - 3.24	日本物理学会第70回年次大会 (早稲田大学)
5.24 - 5.28	Int. Conf. Plasma Sciences (ICOPS 2015) (Antalya, Turkey)
5.31 - 6. 4	Symp. Fusion Engineering (SOFE 2015) (Texas, USA)
5.31 - 6. 4	Pulsed Power Conference (2015 PPC) (Texas, USA)
9. 9 - 9.11	日本原子力学会秋の大会 (静岡大学)
9.13 - 9.16	応用物理学会秋季講演会 (名古屋国際会議場, 名古屋市)
9.14 - 9.18	Int. Symp. Fusion Nuclear Technology (ISFNT-12) (Jeju Island, Korea)
9.16 - 9.19	日本物理学会秋季大会 [物性] (関西大学千里山キャンパス)
10.11 - 10.16	GEC/ICRP-9 (ハワイコンベンションセンター)
11.16 - 11.20	57th APS DPP Annual Meeting (Georgia, USA)
11.24 - 11.27	第32回年会 (名古屋大学) 本学会
12.14 - 12.18	APFA 2015 (Institute for Plasma Research, Gandhinagar, India)
2016	
9.13 - 9.16	日本物理学会秋季大会 (金沢大学角間キャンパス)
10.17 - 10.22	26th Fusion Energy Conference (FEC 2016) (Kyoto, Japan)
10.31 - 11.04	58th Annual Meeting of the APS Division of Plasma Physics (California, USA)

こちら編集委員会です

【もう Plasma and Fusion Research 誌には投稿しない!?】

～インパクトのあるお話～

4月1日に開催された編集委員会の場で、表題のような話題がでてきました。「Plasma and Fusion Research (PFR) にはインパクトファクター (IF) がついていないので若手や学生は投稿すべきではない」と考えている方がいるとか、PFR への投稿後に「PFR には IF がついていないことに気づいた!」として投稿を取り下げた例があるとかなど、それらはもうすべて、4月1日の嘘だと思いたい話でした。

PFR は、プラズマ・核融合に関連する論文を扱い、自由閲覧できる雑誌 (いわゆるオープンジャーナル) として2006年から始まりました。設立当初の PFR の理念、それは、日本を活動主体とし、誰もが自由に閲覧できる雑誌を通じてプラズマ・核融合の研究を世界に発信することでした。現在では年間約150本の論文が発行され、2013年までに1157本の論文が掲載されています。この PFR には IF がついていません。このことが、PFR への投稿をためらわせる大きな要因となっているようです。国内の他の学会・雑誌も同様の悩みを抱えており、その多くはエルゼビア、シュプリンガーといった商用雑誌の傘下に入ることで IF を得ています。

さて、PFR はどうすべきか? 商用雑誌の傘下に入ることが、現状で IF が得られる唯一の方法のように考えられるのですが、昨今のオープンジャーナル傾向がもつ自由閲覧誌ではなくなります。それ以外にもどのような変化が起こるのだろうか、と編集委員会の場で話題になりました。とはいうものの何の結論も出ないまま、まさしくインパクトのある印象だけが残ったのですが……。

読者の皆様はどのようなお考えをおもちでしょうか?

次回5月号は5月25日発行の予定です。新しい講座が始まります、お楽しみに。

【5月号予告】

プロジェクトレビュー 惑星間航行システム開発に向けたマルチスケール粒子シミュレーション

解説 乱流プラズマ研究の位相空間への展開

講座 (第1回) 高密度相対論プラズマの粒子シミュレーション技法